

〈報告〉

平成16年度学生による授業評価に関する報告

専修大学経営学部
自己点検・評価実施委員会

まえがき

平成16年度の「学生による授業評価」について、その実施状況、および実施した教員と回答した学生に関する全体的概要を報告する。この調査を実施するにあたり、ご協力いただいた学部内外の教職員各位に、深く感謝申し上げたい。とくに今回は、データの読み込み集計作業を外部業者に委託したため、その手続きから集計結果の確認に至るまで、職員各位にはたいへんお手数をおかけした。

経営学部では、学生による授業評価を平成7年度に開始して以来、実施方法の再検討を行った平成12年度を除き毎年継続してきた。しかも、平成14年度まではアンケートの回答を詳細に分析して、その結果を「学生による授業評価報告書」にまとめ、7回の刊行を重ねてきた。これらの調査結果は、個々の教員が授業改善に取り組む上で、重要な役割を果たしてきたと考えられる。

しかし、このような報告書の作成は負担が大きいこと、また、報告書に示された詳細な分析結果には、9号館の完成のような事がなければ、毎年あまり変化がみられないことも指摘されてきた。そこで、本委員会において検討した結果、「学生による授業評価」については従来どおり実施するが、報告書は数年おきに作成するものとし、『専修経営学論集』に、調査の全般的な概要のみを報告することとした次第である。ただし、アンケート調査を実施した個々の教員に対しては、該当する授業に関する集計結果を配付している。

平成17年6月15日

平成16年度経営学部自己点検・評価実施委員会
倉持俊弥（委員長），荻原幸子（副委員長），
田口 勇，山崎秀彦，中村政徳，
新井範子，渥美幸雄

1 授業評価の目的

学生による授業評価の目的は、受講した学生の評価・意見に基づいて、個々の教員が授業の改善点を模索することにある。学生の要求・学力と授業内容を照応させること、もしくは授業方法により一層の工夫を凝らすことなどの作業は、避けて通ることのできない問題である。

ところで、学生の評価に無原則に従従することがあってはならないことも、もとより自明である。しかし、学生による授業評価が、授業改善に役立つデータを提供していることも否定できない事実であり、教員の主体的な取り組みが問われている。

ただし、平成7年度に、初めて授業評価を実施した際の教授会申し合わせ事項、「教員の勤務評定には絶対に利用しない」ことにも留意する必要がある。

2 授業評価調査票の内容

平成16年度の授業評価調査の質問項目は、前回までの調査との比較が可能であるよう連続性を保つために、平成13年度と同じものを使用した。ただし、平成7年度から平成11年度までに使用した調査票とは、回答にマークカードを用いたことを含め大幅に異なっており、その変更内容については、13年度の授業評価報告書を参照されたい。また16年度の調査では、データの読み込み及び集計作業を外部委託することを委員会で決めたこともあり、学生による自由記述欄は設けなかった。自由記述欄の質問項目と、結果の集計・分析方法については、本委員会で検討中である。

平成13～16年度の授業評価調査票では、25の質問項目を次の6つの群に分けている。

- A. 授業の環境・方法について (記入欄1～13)
- B. 授業の内容について (記入欄14～18)
- C. あなたについて (記入欄19～24)
- D. 総合評価について (A～Cを踏まえて) (記入欄25)

上記の質問項目は、すべて5段階評価による記入を行っている。

3 授業評価の実施

平成16年度は、次の点を考慮して、授業評価を実施した。

第一に、後期授業の終了前に学生による授業評価アンケート調査を実施し、その資料を集計して実施状況の概要報告と各授業ごとの集計表を作成した。前期にも授業評価を実施するかどうかの希望を募ったが、そのデータは、本報告書の集計に含めないこととした。

第二に、原則として、経営学部において設置されているすべての授業科目を評価対象としたが、ゼミナール、他学部設置された科目等は除外した。これは教授会の了解を得て平成13年度に初めて採用した方式であるが、本年度も継続することとした。

第三に、学生による授業評価は強制的に実施されるものではなく、兼任教員を含むすべての授業担当者に対して、実施希望授業についてのアンケートを行った。授業担当者全員に対する実施希望アンケートは、10月中頃、実施科目および実施予定日などについて行った。その後、11月中旬以降12月にかけて、各教員により随時授業評価が実施された。

4 授業評価実施教員および回答者の概要

表1は、授業評価を実施した教員数(兼任教員を含む)・授業数・学生数を示している。平成16年度だけでなく、推移を見るために過去の年度の数値も示しているが、平成13年度に経営学部からネットワーク情報学部が分離独立したため

表1 系列別学生数，教員数，授業数の推移（授業評価実施分）

系列	年度	教 員 数								授 業 数								学 生 数							
		8	9	10	11	13	14	15	16	8	9	10	11	13	14	15	16	8	9	10	11	13	14	15	16
経 営		11	9	14	17	8	8	10	10	21	15	22	28	14	17	17	21	1,394	1,630	2,094	2,422	1,712	1,789	1,864	2,105
会 計		4	6	6	7	6	6	5	7	7	9	13	16	14	15	14	16	808	898	896	1,171	869	759	529	679
商 学		3	3	3	5	7	7	9	7	6	6	5	6	11	13	17	18	787	699	303	478	1,405	1,325	2,049	1,816
経 済		2	3	2	5	4	2	1	6	3	3	4	10	5	6	1	9	58	193	76	791	294	639	131	447
情報管理		13	13	17	32	12	18	17	18	36	30	40	44	26	42	37	41	1,872	1,156	1,372	1,799	962	1,216	1,454	1,259
教 養		9	22	9	36	3	4	5	3	20	34	17	47	7	5	6	5	1,133	2,109	826	1,735	1,133	536	590	689
英 語						29	22	26	27					38	30	35	36					1,205	868	971	935
英語以外外国語						6	4	8	4					7	4	9	5					117	73	146	77
体 育						2	1	1							4	2	2						468	238	251
教職・司書・学芸員課程						3	3	3	3					4	4	4	4					184	208	218	225
外国書講読・共通科目					2	11	8	11	12				2	12	17	8	13				99	354	308	108	395
合 計		42	56	51	104	89	84	96	98	93	97	101	153	138	157	150	170	6,052	6,685	5,567	8,495	8,235	8,189	8,298	8,878

注1 平成13～16年度は，専門系列以外も系列ごとに分けて表示

注2 「共通科目」に含まれる科目：経済英語，経営法学，商法Ⅰ，商法Ⅱ，労働法，民法

注3 平成13～16年度は，1人の教員が，経営と教養など複数の系列の科目を担当している場合には，それぞれの系列において1人としてカウント

注4 平成15年度の学生数には，データの読み込みで異常があった以下を含んでいる

合計160人（商学系列1授業119人，英語系列1授業27人，英語以外外国語系列1授業14人）

表2も同じ，表3から6では不明に加えてある

に、その年度の経営学部の専任教員数が、73名から48名に減少したこと、特に情報管理系列の教員が、17名から4名に減ったことに注意する必要がある。

平成16年度は、授業評価の実施科目数が前年の150から170に増加し、過去最多となった。授業評価に参加した教員数は、前述のような事情によって平成13年度に大幅に減少し、14年度も84名と引き続き減少していたが15年度は96名へと増加し、16年度もほぼ前年なみとなった。また、授業評価に回答した学生数も漸次減少傾向にあったが、16年度は約7パーセントほど増の8,878名と、本調査の開始以来、最多となった。ただし、学内で回答票の読みみ作業を行っていた前年までは、一部記入漏れやマークのミスがあった回答票を無効の扱いとしていたことを考慮する必要がある。

表2は、経営学部の各系列ごとに、授業評価の実施比率を示したものである。表の作成方法は、平成13年度の授業評価報告書に沿っている。経営学部の学生に開講されているすべての授業科目を評価対象としたことから、当該開講授業および授業担当者一覧表に基づいて集計が行われている。したがって、[学部系列教員]欄における教員数には、長期在外研究者など、この一覧表に掲載されていない教員がカウントされておらず、また、外国書講読・共通科目については、重複してカウントされている。このため、平成16年度の経営学部専任教員数は55名であるが、表2の「学部系列教員数」は86名として計算が行われている。

[教員]欄には、専任教員だけでなく、兼任教員も含めて集計が行われている。なお、特定の系列に所属する経営学部専任教員が、外国書講読以外にも他系列の授業科目を担当しているケースにおいては、それぞれの系列ごとに1人としてカウントされていることに注意する必要がある。

経営学部専任教員の実施状況をみると、総数は前回の40名から42名に増加したが、実施割合は、53%から51%へ低下した。これで教員の実施割合は2年続けて低下したことになる。

系列別に見ると、情報管理系列、経済系列、そして教職・司書・学芸員課程系列の教員は、100%と積極的な参加が目立った。「授業数」全体に占める実施割合は、14年度の50パーセントから15年度は46%へと下っていたが、16年度は50パーセントにもどった。一方、学生の履修登録数に占める評価実施者数の比率も、31パーセントと、前回より上昇した。

表2 系列別の授業評価実施割合

系 列	教 員			学部系列教員			授 業			学 生		
	数	実施	割合	数	実施	割合	数	実施	割合	数	実施	割合
経営	18	10	0.56	12	8	0.67	36	21	0.58	5,701	2,105	0.37
会計	10	7	0.70	7	5	0.71	24	16	0.67	2,615	679	0.26
商学	11	7	0.64	5	4	0.80	24	18	0.75	5,525	1,816	0.33
経済	9	6	0.67	3	3	1.00	26	9	0.35	2,481	447	0.18
情報管理	30	18	0.60	7	7	1.00	64	41	0.64	3,405	1,259	0.37
教養	9	3	0.33	4	0	0.00	17	5	0.29	2,983	689	0.23
英語	50	27	0.54	5	3	0.60	73	36	0.49	2,797	935	0.33
英語以外外国語	10	4	0.40	2	0	0.00	14	5	0.36	356	77	0.22
体育	2	1	0.50	2	1	0.50	4	2	0.50	706	251	0.36
教職・司書・学芸員課程	4	3	0.75	3	3	1.00	11	4	0.36	468	225	0.48
外国書講読・共通科目	38	12	0.32	33	8	0.24	45	13	0.29	1,674	395	0.24
合計	191	98	0.51	83	42	0.51	338	170	0.50	2,8711	8,878	0.31

注1 教員数：各系列の評価対象授業を担当する教員数

注2 授業数：「委員会で指定した評価対象授業数」+「その他に教員が実施を申告した授業数」、複数展開している科目は重複してカウント

注3 学生数：評価対象授業に履修登録している学生総数

表3 学部大学院別学生数

年 度	13	14	15	16
一 部	8,195	8,149	8,116	8,855
二 部	13	17	18	11
大学院	12	3	3	6
科目等履修生	4	18	1	3
不 明	11	2	160	3
合 計	8,235	8,189	8,298	8,878

注 二部経営学部はないが、14人が二部と経営学科を選択している

表3は、アンケート回答票への記入事項にしたがって、13年度から作成されている。このデータによれば、一部学生の授業評価実施者数は過去最多となった。なお、全体に占める割合は小さいが、授業評価に回答した大学院生及び科目等履修生の数は、ともに前年度に比べて増加した。

表4は、授業評価に参加した学生数の学部・学科別構成を示したものである。情報管理学科の回答学生数の割合は、同学科新1年生の募集がなくなり、13年度以降大きく減少している。同学科の回答学生数の割合は、15年度は1%であったが、16年度は0.1パーセントとなった。このように情報管理学科の学生数が減少した一方で、経営学科の学生による授業評価の回答数が増加した結果、授業評価

表4 学部学科別学生数

学部学科	年 度							
	8	9	10	11	13	14	15	16
経営学科	4,327	4,660	4,010	6,805	6,698	7,321	7,278	8,181
情報管理学科	1,113	858	1083	1526	556	271	70	11
経営学部合計	5,440	5,518	5,093	8,331	7,254	7,592	7,348	8,192
経済学部	188	247	77	13	151	101	115	162
法 学 部	92	289	70	2	198	49	72	42
商 学 部	168	231	101	46	289	101	131	120
文 学 部	149	400	216	94	281	201	177	190
ネットワーク情報学部					31	110	290	165
大学院・科目等履修生					16	21	4	6
不 明			10	9	15	14	161	1
合 計	6,037	6,685	5,567	8,495	8,235	8,189	8,298	8,878

を行った全学生数に占める経営学科の学生の比重は、前年度の88パーセントから92パーセントに上昇した。

表5は、授業評価に参加した学生の学年別構成である。各学年の構成比で見ると、1年生と2年生は、前年度より比重が下がり、両学年ともに約30パーセントとなった。3年生はほぼ前年度と同じく約20パーセントで、4年生の比重は前年の10パーセントから15パーセントに上がった。全体的に、学生による授業評価を導入した初期の頃に比べ、学年による偏りは小さくなりつつあると言えるかもしれない。

表5 学年別学生数

学 年 \ 年 度	8	9	10	11	13	14	15	16
1年	1,545	1,720	1,683	3,184	2,663	2,914	2,805	2,807
2年	2,733	2,748	1,834	2,538	2,969	2,252	2,712	2,785
3年	1,147	1,514	1,340	1,596	1,798	1,899	1,731	1,862
4年	564	665	658	1,071	718	1,064	846	1,289
5年以上	57	37	40	80	15	35	37	75
大学院・科目等履修生					16	21	4	6
不明	6	1	12	26	56	4	163	54
合 計	6,052	6,685	5,567	8,495	8,235	8,189	8,298	8,878

表6は授業評価に参加した学生の性別構成である。これによると、回答数に占める男性の比率が約70%、女性の比率は、約30パーセントで、本調査の実施時から、ほぼ一定の状態が続いているといえることができる。

表6 性別学生数

性 別 \ 年 度	8	9	10	11	13	14	15	16
男	4,385	4,798	4,073	6,172	5,703	5,933	5,766	5,733
女	1,586	1,872	1,480	2,288	2,339	2,256	2,372	2,323
不明	81	15	14	35	193	0	160	822
合 計	6,052	6,685	5,567	8,495	8,235	8,189	8,298	8,878

注 平成11年度の報告書における無回答18名と無効回答17名を加えて不明とした

5 授業評価の実施および集計作業に関する課題

平成16年度の学生による授業評価の集計作業は外部委託されたため、昨年度と比べて短期間で集計結果を得ることができ、経営学部自己点検・評価実施委員会委員の作業負担も軽減された。このことにより、授業評価を実施する教員・授業数が今後さらに増加した場合にも、対応していくことができるであろう。

平成15年度、16年度のアンケート票からは自由記述を除外したが、同項目もあった方がよいとの意見もある。質問票の内容を含め、本調査を授業の一層の改善に役立つものとしていくための方法を検討することが今後の課題である。